

# 児童の職業観・勤労観を育む授業プログラムの開発

P 1 2 0 3 8 J 周藤 匡文

【キーワード】 職業観・勤労観 職業価値観 キャリア教育 授業プログラム開発

## 【要旨】

キャリア教育は、小学校から大学までを通して、職業観・勤労観等、態度意欲、基礎的・汎用的能力等を育成していくこととされている。これらの領域の中で、職業観・勤労観の育成、特に職業価値観の育成は、他の諸能力等の育成とともに重要な要素と考えられる。本研究は、小学生の職業観・勤労観を培うための授業を中心とするプログラムを開発し、その効果を検討することを目的とした。

プログラムの目標：児童が次のような価値観について、気づきや理解を深めることであった。①働く（職業）ことへの理解：世の中にはいろいろな職業があることを理解する。また、それらの職業の内容についての理解を深める。②何のために働くのか（価値）：(ア)いろいろな価値観があることに気づく。(イ)自己の価値観の確認。(ウ)他児童の価値観の違いを認める。(エ)今もっている価値観は、将来変化していく可能性があることに気づく。

プログラム内容：(1) 事前調査（職業リスト、職業観テスト）、(2) 事前学習；①家族インタビュー、②職業調べ学習、(3) 第一次授業；①職業価値の順位づけ、②小集団（班）での話し合い、(3)第二次授業；ポスターセッション発表、(4) 事後調査（職業リスト、職業観テスト）

結果は次のようであった。①事前学習により、児童の挙げる職業の数、職業内容の記述から知識が増大し、深まったことがうかがわれた。②事前・事後の職業観テストを比較した結果、職業価値のうち、「自分の得意なことをいかすため」がより重視され、「働くのは当たり前だから」は重要度が下がったことが示された。また、「人に認められるため」は重要度が上がる有意な傾向がみられた。事後テストの結果は、班ごとに集団決定した結果と類似していた。これらの結果に基づき、本研究で開発した授業プログラムは、児童の職業観・勤労観の育成に一定の効果を有すると考えられる。

# I 問題意識

## 1. 現代のキャリア教育の重要性

1999年中央教育審議会答申による「学校教育と職業生活の円滑な接続を図るため、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育（キャリア教育）を、発達段階に応じて実施する必要がある」とする「キャリア教育の推進」の提言を受け、2004年には、キャリア教育と進路指導の関連を明示する、『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』が出された。これらの答申や報告書が出る以前は、「キャリア教育」という言葉は学校現場でほとんど使用されず、「進路指導」も中学校と高等学校において実施されるものとされ、小学校では特に必要性が強調されなかった。しかし、最近の中央教育審議会答申（2011）を受けての文部科学省の手引「小学校キャリア教育の手引き」（文部科学省 2011）によれば、キャリア教育は小学校から大学までの期間、発達段階に応じて実施する必要があるとされている。

このような変化は、キャリア教育の基本的な理念から発生したものと考えられる。すなわち、キャリアを単に就職といった狭い意味で捉えるのではなく、個々人の人生と同義と捉えた場合（キャリア教育の手引き 文部科学省 2011）、キャリア教育は生まれてから死ぬまで一生続けられるものであろう。とはいえ、その人生の中で、職業生活は生活の核となる重要なものである。したがって、広い意味のキャリア教育は、学習者（児童・生徒）、社会人、家庭人、といった人生におけるさまざまな役割に関わりを持ちながらも、学校におけるキャリア教育の中心は職業生活への準備が中心であるべきだと考えられる。その際、小学校段階では、具体的な職業選択や専門的知識の習得に結びつくものではなく、社会人としての基礎的な能力の育成と、職業観・勤労観の育成に重点を置く時期であると考えられる。

## 2. 職業観・勤労観について

キャリア教育で育成すべき内容については、上記の答申（2011）において「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力の要素」として、大枠が示されている。それは、①基礎的・基本的な知識・技能、②基礎的・汎用的能力、③

論理的思考力・創造力、④意欲・態度、⑤職業観・勤労観等の価値観、及び⑥専門的な知識・技能の6種類である。これらの要素すべてが、キャリア教育として育成されるべきものであるが、本研究では、このうち、特に職業観・勤労観等の価値観の育成に焦点を当てる。この職業観・勤労観は、前述の『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』において、「(キャリア教育とは) 端的には、職業観・勤労観を育てる教育」とされたことから明らかなように、キャリア教育の中で、重要な要素であると考えられる。

なお、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」(2002)では職業観・勤労観について次のように記述している。

「職業観」…人それぞれの職業に対する価値的な理解であり、人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識である。

「勤労観」…勤労に対する価値的な理解・認識である。

※「職業観・勤労観」の価値的な理解とは…

「世の中にはどのような職業があり、それぞれの職業ではどのような仕事をし、どのような専門的資質・能力が必要なのかについての知識・理解をもとに、自分はどの職業にどのような働きがいや誇りを見出そうとするか、あるいは、生きていく上で職業にどのような意味づけをあたえていくかということである。」

白木(2010)

さらに、以上をまとめて、「職業観・勤労観」とその価値的な理解を以下のように定義している。

「職業観・勤労観」は職業や勤労についての知識・理解及びそれらが人生で果たす意義や役割についての個々人の認識であり、職業・勤労に対する見方・考え方、態度等を内容とする価値観である。その意味で、職業・勤労を媒体とした人生観ともいうべきものであって、人が職業や勤労を通してどのような生き方を選択するのかの基準となり、また、その後の生活によりよく適応するための基盤となるものである。

国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)第2章より(傍線は筆者)

### 3. 先行研究

#### (1) 授業プログラムによる職業観・勤労観の育成

これまでに、職業観・勤労観を育成することを目的とした研究は、いくつかある。例えば、田原(2007)は総合的な学習の時間における実践研究で、小学校6年生を対象とし、職業観・勤労観を育てるための授業を行っている。田原(2007)は職業観・勤労観を「夢や選択肢を広げて考える楽しさ、自分の可能性を広げる(気づく)ことの楽しさを味わうことによって、これからの自分に希望をもつことができる教育」と定義している。職業観を育む活動構成は、『自分の夢マップ』、『夢の設計図』づくりをおこなっている。また、1年間を通して日記を書くことや、卒業式を迎えた3月に、5年生に『伝統引継ぎ式』を行った。その結果、キャリア教育を機能させた「総合的な学習の時間」の取り組みは、児童の発達に応じた職業観・勤労観の育成に「自分の未来を肯定的にとらえ、よりよく生きていこうとする」児童へと変容する効果があると報告している。しかし、このような授業の他教科等への活用のしかたや、妥当性と信頼性のある効果測定については、課題が残るとしている。

このような総合的な学習の時間の中でも、職業観・勤労観の育成は可能であると考えられるが、筆者は、このような自分の将来を机上で考える活動のみでは、職業観・勤労観の育成、特に職業価値観の育成に限界があると考えた。そこで、今までの「職業観・勤労観」の先行研究を検討した結果、近藤(2010)の「児童の勤労観や職業観をはぐくむプログラムの開発・実施」を参考にすることが望ましいと考えた。

近藤(2010)は、児童の職業観・勤労観を育成するために、児童の自主的な活動を中心にプログラムを開発し、実施している。そこでは、道徳の時間、特別活動(学級活動の時間)において、SGE(構成的グループ・エンカウンター)、GWT(グループワーク・トレーニング)などにより、自己理解・他者理解を深める活動を行っている。近藤(2010)はキャリア教育の4領域8能力を基盤とし、学校や家庭、地域での自分の役割について、その意味や果たす意義を考え、役割を果たす喜びを味わう体験を通して、豊かな勤労観や職業観を育成していくものだと述べている。このことから、近藤(2010)は、職業観・勤労観を能力、価値観、態度を含めた広い意味で捉えていることが分かる。本研究では、文部科学省の新しい概念整理にしたがい、「職業観・勤労観」を職業やその内容についての認識に基づく、職業や勤労への価値観や態度に限定して扱いた

い。ただ、本研究を行うにあたり、近藤(2010)で参考にしたいのは、効果測定に使用している「職業観テスト」(国立教育政策研究所,2005)である。このテストは、将来働く目的について、12項目の質問で尋ねている。

この研究のまとめとしては、「人間関係を形成する能力の育成」に焦点を当てたキャリア教育の効果を検証し、①“人の役に立ちたい”“人と仲良くしたい”“世の中をよくしたい”という人間関係の形成に関する働く価値観の向上、②“偉くなりたい”“お金を得たい”“人に認められたい”という価値観の低下③働く意義についての理解の向上などが平均値に有意に変化をおこしている点から、「人間関係を形成する能力の育成」は職業観・勤労観を高める効果があると報告している。

## (2) 職業観・勤労観の測定

職業観・勤労観を特に職業価値観から捉える尺度としては、増田・広井(1965)の「職業観診断テスト」が古くから利用されていた。最近では、山田(2005,2007)が「職業観テスト」を用いて調査を行っている。この調査は、何のために働きたいかという視点で「職業(仕事)目的意識」とも呼べる12項目の働く目的を取り上げ、回答を求めている。『職業あるいは仕事につくことによって何をしようとしているのか、何を最も重視して職業につこうとしているか』といった「職業目的意識」あるいは「職業価値観」を捉えようとしている。

山田によれば、彼の作成した「職業観テスト」は、「職業価値観」を測定するために増田・広井(1965)が作成した「職業診断テスト」を構成する下位概念に対応しており、その対応関係は表1のようになるという。「職業観診断テスト」の5つの下位尺度は次のとおりである。(山田 1882)

### 第Ⅰ尺度 職業の経済性重視

職業に従事することによって得られる収入、生活の安定、経済生活の向上などを重視する度合い。

### 第Ⅱ尺度 職業の社会的価値重視

職業に従事することによって得られる社会的地位、名声、威光、ないしは集団所属、社会的承認などを重視する度合い。

### 第Ⅲ尺度 職業における自己実現重視

職業に従事することによって、自己の個性・能力を発揮し、自由な自主的活動を通して、自己の興味や理想を実現しようとする態度を測定する。

#### 第Ⅳ尺度 職業義務感

職業の社会的有用性を極めて高く評価し、職業を義務視し、あるいはこれを神聖化して、職業の社会的有用性が、個人的な要求や欲求に優先するものであるとかがえる度合い。

#### 第Ⅴ尺度 帰属性

作業集団・企業体・事業体に所属した場合、その集団に対する忠誠心、職業移動に対する抵抗性、職場での定着性などに現れる職場・企業体への帰属性。

表1 山田(2007)の職業観の項目と増井他の職業診断テストの下位尺度との対応関係

職業観尺度	項目表現
第Ⅰ尺度 職業の経済性重視	お金持ちになるため 遊ぶのに必要なお金をもらうため 暮らすのに必要なお金をもらうため 貧乏にならないため
第Ⅱ尺度 職業の社会的価値重視	偉くなるため 人に認められる
第Ⅲ尺度 職業における自己実現重視	自分の得意なことを生かすため やりたいことをするため
第Ⅳ尺度 職業義務感	世の中をよくするため 働くのはあたりまえだから
第Ⅴ尺度 帰属性	(該当なし)

※なお、この表1には「職業観テスト」(国立教育政策研究所,2005)の12項目のうち、「人の役に立つため」、「人と仲よくするため」の項目が入っていない。

#### 4. 児童に育みたい職業観・勤労観の内容

では、具体的に、児童にどのような内容の「職業観・勤労観」を学ばせることを目指せばよいのであろうか。白木(2010)は、「職業観・勤労観」について、道徳的価値の側面から考察している。白木は尾高(1941)を引用し、「職業は、個性の発揮、連帯実現及び生計維持の三面よりなる行為形式である」(p79)とした上で、注意すべきは、職業の一面のみを見てその全面を見ていないこと、あるいは一面を強調するあまりにそれを以て全面と混同しているということであるとしている。つまり職業の理想形態は、

「経済性」・「個人性」・「社会性」の三要素のバランスの上に成立し、また、いずれが欠けても職業とは定義することはできないということを示唆するものである。確かに職業を考えてみると、一面ではなく尾高のいう三面からなることは納得できる。つまり、職業的価値は、例えば人の役に立つという「社会性」のみのように、ある一つの価値だけを最も気高いものとして教え込むのではなく、このようなさまざまな価値が存在することを理解することが教育上、重要と思われる。

中学校においては、「道徳の時間では、責任をはじめとする、在り方、生き方にかかわる道徳的価値の追求、職業の三要素（個人性、経済性、社会性）の道徳的価値、学ぶ意義・働く意義・生きる意義、存在すること、生かされていることへの感謝、生命の神秘性・連続性・有限性への畏敬の念等」（白木,2010,p84)望ましい職業観・勤労観の育成と関連を意図した取り組みが考えられると記述している。この白木の考え方は、中学生に向けたものであるが、小学校段階でも、これらのうちの多くに触れていくことが望ましいと思われる。ただし、小学校段階では、同じ価値観を扱うにしても、日常に基づいた身近な内容を扱うという配慮が必要である。すなわち、抽象的・論理的な思考過程と結論を求めるのではなく、さまざまな価値への側面への「気づき」と、児童なりの「主体的な思考」に主眼を置くことが重要である、さらに、中学校、高等学校から社会に至るキャリアについて、希望や憧れをもつようにさせることが望まれる。

## 5. 本研究の目的

本研究では、小学校高学年を対象に彼らの「職業観・勤労観」を育てるための授業プログラムを作成し、その効果を検討することを目的とする。

本研究でいう「職業観・勤労観」は、主として職業に関する知識に基づいた職業価値観と態度を指している。具体的には「職業あるいは仕事につくことによって何を得ようとしているのか、何を最も重視して職業につこうとしているのか」ということに焦点を当てる。

職業観・勤労観を育成する方法としては、探求型の調べ学習と小集団（班）での話し合いを活用する。小学校段階では、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力の基礎を形成する段階である。本研究で実践しようとする職業観・勤労観

に関する基礎的な知識・価値観に触れる経験は、その後の職業体験や職業選択を行う中学校以降のキャリア発達に向けて、有意義な準備体験になると思われるからである。

## II 研究の計画

### 1. 授業プログラムの具体的な目標

- ① 働く（職業）ことへの理解→世の中にはいろいろな職業があることを理解する。また、それらの職業の内容についての理解を深める。
- ② 何のために働くのか（価値）→(ア)いろいろな価値観があることに気づく。(イ)自己の価値観の確認。(ウ)他児童の価値観の違いを認める。(エ)今もっている価値観は、将来変化していく可能性があることに気づく。

### 2. プログラムの全体的な流れ

項目	内容	目的
事前調査	① 職業リスト（プレ） （Appendix1） ② 職業観テスト（プレ） （Appendix2）	① 現在の知っている職業についての内容、役割などを記入する。 ② 何のために働くのか、児童の考え（価値）を事前に把握する。また、近藤(2010)の調査結果と比較するため実施。
事前学習	① 家族インタビュー （Appendix3） ② 職業調べ学習（一人学習） （Appendix4）	① 身近にいる職業人として、家族から働くことへの喜び、幸せ、大変なことをインタビューし、働くことの意味について理解を深めることを目的とする。 ② 児童の興味のある職業について、書物（13歳のハローワーク）やインターネットなどで調べ、職業の内容、その職業が社会にどのような役割や責任があるか、また、どうしたらその職業につくことができるかを調べる。
第一次	① 職業ダイヤモンドランキング （職業価値の順位づけ） （Appendix5） ② 小集団（班）での話し合い活動	① 12項目の中から、何のために働くのか、職業価値観を順位づけし、自分にとって何が重要か、何が重要でないかを理由を言えるように、各自、ワークシートに記入する。 ② 各自、記入したワークシートを参考にしながら、小集団（班）で話し合い活動を展開し、上位3項目、下位3項目を画用紙に書き込む。さらに、働くことへの小集団（班）内での意見をまとめる。働くことへの価値観の多様性について学ぶ。



第二次	ポスターセッション発表	小集団（班）内の意見や、自分の意見、調べたことを発表し、自分の思いや考えを友達に伝えることができる。また、何のために働くのかという、いろいろな価値観があることに気づくことができる
事後調査	① 職業リスト（ポスト）  ② 職業観テスト（ポスト）	① 家族インタビュー、職業調べ学習、小集団（班）での話し合い活動によって得た知識により、現在の知っている職業についての内容、役割などを記入する。 ② 小集団（班）での話し合い活動によっていろいろな価値観があることに気づき、何のために働くのか、児童の考え（価値）を再確認するために実施。また、近藤(2010)の調査結果と比較するため実施。

### 3. 実践対象および実践者・実践期間

- (1) 実践研究対象校 A市立B小学校
- (2) 対象校の地域性 内陸部の小さな町。地元企業はあるが、大規模な企業はない。
- (3) 対象校のキャリア教育の認識 学校目標にされていることはなかった
- (4) 対象児童 第6学年 1クラス 23名（男子10名、女子13名）
- (5) 授業実践者 筆者
- (6) 実施期間 平成25年9月18日～平成25年12月6日
- (7) 実施時間 ・6～7月にかけて、学級における参与観察（週2日程度）  
・11月14日、25日に実践授業を45分×2時間（道徳の時間）に実施。

### 4. 効果測定

効果測定：実践した授業の効果は、次のもので測定する。

- (1) 知っている職業→調べ学習により、知った職業を認識する。
- (2) 職業観テスト「国立教育研究所(2005)」を授業の前後に実施する。
- (3) 職業の意識の変化。（ダイヤモンドランキング12項目）
- (4) 職業観・勤労観に関する自由記述、および感想などを記述させ、その内容をもとに効果について検討する。

### Ⅲ 職業観・勤労観のプログラムの中核となる授業実践内容

#### 道徳学習指導案（6年）

第一次： 「自分の働く価値と、他者の価値との違いにふれる」

本時は、前回からの質問紙アンケート調査、家族のインタビュー、調べ学習によって得た、「働くことの意味」を理解した上で、一人学習から班学習へと展開することを意図している。働く（職業）ことへの理解をすることで、世の中にはいろいろな職業や価値観があることを理解する。

#### 主題名

◎働くことってどんなこと？〔内容項目 4－（4）勤労〕

#### ねらい

◎自分が働く上で重要な項目（大切なこと）や、重要でない項目（そうでないこと）について他児童と意見交換し、働くことへの価値観の多様性について学ぶ。また、世の中にはいろいろな職業があることを理解する。

準備物 ワークシート（職業ダイヤモンドランキング）、画用紙、マジック

	学習活動と内容	指導上の留意点
導入 （10分）	1 ○「職業ダイヤモンドランキング（職業価値の順位づけ）」づくりの目的、内容を説明する。	○本時の学習の方向付けを図る。

展開 (30分)	<p>2、職業ダイヤモンドランキング（職業価値の順位づけ）を作成し、班に分かれて話し合う。</p> <p>(1) ○各自、働く上で、重要と思う項目と、そうでない項目を出し合う。</p> <p>(2) 働くことで大切に思うことについて友達の挙げた項目と、自分の挙げた項目について感想を発表し、互いの価値観の違いに気づく。</p>	<p>○ここでは、どれが「正しい」とか「間違っている」ということはない事を、児童へ助言しておく。</p> <p>○最上位と最下位の項目を選んだ理由を記入し、発言できるようにする。</p> <p>○働くことについては、いろいろな考えや職業について価値観があることに気づき、共感できるようにする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>他児童との価値観の違いを認め、自分の価値観との違いに触れる</p> </div>	
終末 (5分)	<p>3、話し合いで気づき、学んだこと等を参考にして各自、教室にはたらくことで大切だと思う上位3項目、下位3項目をまとめる</p> <p>(1) 各自が考えた上位3項目と下位3項目出し合い、班内として画用紙に書き込む。</p> <p>(2) 次時の発表における役割を決める。</p>	<p>○必要な筆記用具、画用紙を準備しておく。</p> <p>○次時のめあて、内容、方法、時間について助言しておく。</p> <p>○全員が発表に関われるように助言する。</p>
	○教師の話聞く。	○働くことへの価値観の多様性について共感し、理解できるようにする。

**第二次： 「調べたことや、グループで話し合ったことについて役割を決めて発表する」**

本時は、第一次に続き、班内で話したことや、自分の考えていた項目（価値観）の違いに触れ、班ごとに画用紙使い、上位三項目、下位三項目を抽出し、クラスの前で意見や、どういう経緯でこのような結果になったのかを自信を持って発表できるかが本題である。また、何のために働くのかという、いろいろな価値観があることに気づき、自分の思いや、意見を友達にきちんと伝えることができるようにする。

**主題名**

◎自他の意見から、職業価値観の多様性に気づこう。〔内容項目 4－(4) 勤労〕

**ねらい**

◎班内の意見や、自分の意見、調べたことを発表し、自分の思いや考えを友達に伝えることができる。

◎働くことに関する職業価値観について、人により様々であることに気づく。

**準備物** マグネット、ワークシート（上位3項目、下位3項目を選んだ理由の説明）、

画用紙

	学習活動と内容	指導上の留意点
導入 (10分)	1、前時の学習を振り返る。	○前時の働くことへの重要性について、学習の振り返り。本時の学習の方向付けを図る
展開 (30分)	2、班内に発表内容や、発表方法、役割を確認したあと、発表用の画用紙を掲示する。	○発表用の画用紙は、教室内に掲示し、全員が見えるようにしておく。(発表時間は1班×3分)
	3 (1) 班ごとに、働くことの大切さについて分かりやすく発表する。 (2) ポスターセッション形式で順番に発表する。	○学級内を発表する班と、発表を聞く班の2つに分ける。(計6班) ○班内で分かりやすく発表できるようにする。
	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;">グループ内の意見や、自分の意見、調べたことを発表し、自分の思いや考えを友達に伝えることができる。また、何のために働くのかという、いろいろな価値観があることに気づくことができる。</div>	
	4、発表後、質問や感想を述べ合う。	○発表した班の内容を聞き、自分や班との職業価値観の相違点を押さえることをわかるようにする。
まとめ (5分)	○教師の話	○働くことの意味や、職業についての価値観は人により多様なものがあり、とても重要であることについて理解できるようにする。 ○本時の学習は自己実現をするために大切な学習内容であったこと、また、価値観は将来には変化することもありえることも助言する。

**IV 結果 ー 職業観・勤労観を育む授業プログラムの効果ー**

**1. 職業の知識や理解について**

**(1) 職業リスト**

事前の「職業リスト」(9/10実施)の結果を下記の表2で示す。多数の児童は自分の家族の職業を書いた者が多かった。そのほかの職業については、平均4.3個の職業名を挙げていた。知っている職業はもっと多いと思われるが、再生できる数は少ない。しかし、書き出した職業については、その内容について、簡単に説明できていた。これは、興味のある職業については、家庭や学校、また友達との中で話をしており、ある程度の概要を理解できていると考えられる。

表2 職業リストの事前質問紙アンケート結果

順位	職業名	どんなことをする仕事か?	人/%
1	学校の先生	勉強を教える人。いろいろなことを教える仕事。	20(86.9)
2	医者	病気を治す人。病気をなくす人。	16(69.5)
3	介護士	お年寄りの世話をする人。楽しませてあげる。	15(65.2)
4	保育士	小さい子のお世話をする人。子どもの面倒をみる。	13(56.5)
4	警察官	悪い人を捕まえる人。安全を守る。	13(56.5)

注) 4位は同数で2つあった。

授業プログラムを実施した数日後、事後の「職業リスト」を実施した(12/6実施)。その結果から、多くの子どもたちが記入した職業名、上位5位までを表3に示す。

表3 職業リストの事後質問紙アンケート結果

順位	職業名	どんなことをする仕事か?	人/%
1	学校の先生	私たちに、教科をおしえる。宿題をつくる。	21(91.3)
2	保育士	子どもの世話や、遊びを教える。	16(69.5)
3	医者	看護師と一緒に、病気を治し、薬をくれる。	14(60.8)
4	美容師	好みの髪型にカットして、綺麗にしてくれる。	11(47.8)
5	芸能人	テレビに出て、全国のひとを笑わせる。	10(43.4)

この結果から、書き出された職業名の量が全体平均7.3個に増加し、「職業リスト」の内容について詳細に記載できるようになった(抽象的な仕事内容から具体的な仕事内容を記入できていた)。これは、事前学習で①家族インタビューや②職業調べ学習によって、家族の方からの職業への意義や、興味のある職業について探求型の調べ学習を行ったことによって、知識が深められたと考えられる。

## 2.職業価値観について

このテストは、「職業リスト」を実施した数日後に行った。児童の「働くのに重要なこと」に関わる意識の変化、価値観の変化を明らかにするための質問紙による調査の質問項目の得点は、「とてもそう思う」5点、「まあそう思う」4点、「普通」3点、「あまりそう思わない」2点、「ぜんぜんそう思わない」1点として算出した。

下記の表4【プレ→ポスト】の数値は、質問項目に関する5段階評価を点数化し合計したもの平均値の推移を表している。

※なお、事前調査で1名欠席があったため、それを除外し、22名のデータを分析に用いた。

表4 職業観テストの結果

働くのに重要なこと(12項目)	人数	プレ(平均値)	ポスト(平均値)	t値
① 偉くなるため	22	2.50	2.52	0.28
② 人に認められるため	22	3.41	3.78	-2.02 <sup>†</sup>
③ お金持ちになるため	22	2.32	1.91	1.44
④ 自分の得意なことをいかすため	22	3.82	4.39	-2.81 <sup>*</sup>
⑤ やりたいことをするため	22	4.05	3.96	0.33
⑥ 遊ぶのに必要なお金をもらうため	22	2.00	1.96	0.00
⑦ 暮らすのに必要なお金をもらうため	22	4.68	4.78	-0.56
⑧ 人と仲よくするため	22	3.68	3.91	-1.50
⑨ 人の役に立つため	22	4.27	4.22	-4.00
⑩ 世の中をよくするため	22	3.73	4.00	-1.19
⑪ 働くのは当たり前だから	22	3.27	2.30	3.47 <sup>**</sup>
⑫ 貧乏にならないため	22	3.68	3.43	0.46

\*\*<.01    \*<.05    .05<t<.10 ; t検定の自由度はすべて21であった。

事前と事後の職業観テストのt検定の結果、④自分の得意なことをいかすため、⑪働くのは当たり前だから、の2項目が有意に変化した。また、②人に認められるため、の項目が有意な傾向がある結果になった。これは、山田(2007)の職業観の項目と増井・広井(1965)の職業診断テストの下位尺度との対応関係で比較すると、職業の社会的価値に含まれる項目の得点が増加し、職業義務感に含まれる項目の得点が減少したことに

なる。“④自分の得意なことをいかすため”の得点が増加した理由については、単に経済的・社会的な理由で働くということから、自己の特性や能力を発揮することも働く上で重要であると思われたのではないかと考えられる。また“⑩働くのは当たり前だから”の得点が減少した理由については、i)家族インタビュー、ii)職業調べ学習でいろいろなことを学び、働くことは義務であるという単純な考えから成長したのではないかと考えられる。有意に増加した傾向にある“②人に認められるため”は、働くうえで、仕事やそれに伴う役割を達成し、人に認められることが喜びになるということを経験したことから気づいたのではないかと考えられる。

このような変化を、近藤(2010)の「職業観テスト」と比較してみると、近藤の調査結果では①偉くなるため、③お金もちになるため、⑧人と仲よくするため、⑨人の役にたつため、⑩世の中をよくするため、の5項目が有意に変化を示しているが、本研究の授業プログラムにより有意に変化したものとは、まったく異なった結果となっている。この違いを生じた原因として、近藤(2010)は「人間関係を形成する能力の育成」に焦点をあてたプログラムとして、さまざまな活動を取り入れて実践している。それに対して、本研究は、職業あるいは仕事につくことによって何をしようとしているのか、何を最も重視して職業につこうとしているかといった「職業目的意識」あるいは「職業価値観」に焦点を当てた活動からなるプログラムを実践した。効果の違いは、このようなプログラムの違いによるものだと考えられる。

次に、今回の調査結果で事前・事後調査を通して、⑦暮らすのに必要なお金をもらうため、⑨人の役にたつため、が常に高い平均値を示していた。また逆に、③お金持ちになるため、⑥遊ぶのに必要なお金をもらうため、が常に低い平均値を示していた。近藤(2010)の調査結果では、“暮らすのに必要なお金をもらうため”“人の役にたつため”は学級全体で事前事後とも高い数値を維持し“お金持ちになるため”“偉くなるため”“遊ぶのに必要なお金をもらうため”は、低い数値であった。また、山田(2007)による小学校5年生の結果では、高かった項目は、“暮らすのに必要なお金をもらうため”(10項目中1位)、“自分の得意なことを生かすため”(2位)であり、逆に低かった項目は、“遊ぶのに必要なお金をもらうため”(10位)、“偉くなるため”(9位)“お金持ちになるため”(8位)であった。これらの結果を比較すると、若干の違いは見られても、全体としては類似している。したがって、小学生の職業価値観に関する全体的な傾向は、

全国的に類似したものと考えられる。子どもたちがこのような価値観を持つ理由としては、次節で示すように、児童の理由づけから、働くことを中心に「生活のための経済的な価値」と「社会的に人々のために役に立つ」ことにおいていることがうかがわれる。

### 3. 小集団（班）活動による価値観の変化

授業プログラムのなかで、小集団（班）活動によって、事前、実践、事後の価値観の変化を把握するため、班学習による活動の前後、及び班学習記録した。この授業プログラムで、小集団（班）活動前の個人の価値観と、小集団（班）活動での集団決定した価値観の変化、さらに、それを受けて、事後に個人の価値観がどう変化したかを下記に記述する。

#### （1）小集団（班）活動前の個人の価値観

上位として挙げた項目は以下のものである。①暮らすのに必要なお金をもらうため、②世の中をよくするため、③人の役に立つため、が上位を占めた。その理由として代表的なものを挙げると以下のようなものである。

##### ① 暮らすのに必要なお金をもらうため

- ・暮らすにはお金がいるから。・お金がないと幸せな生活ができないから。
- ・お金がないと生きていけないから。

##### ② 世の中をよくするため

- ・悪い人をこらしめる。・平和に働きたいから。・楽しく仕事をしたいから。

##### ③ 人の役に立つため

- ・人の役に立つことは、みんなが平和になれるから。・役に立つことは重要とおもうから。・人に笑顔や幸せになってもらえるから。

下位として挙げた項目は以下のものである。①遊ぶのに必要なお金をもらうため、②偉くなるため、③お金持ちになるため、が下位を占めた。その理由として代表的なものを挙げると以下のようなものである。

##### ① 遊ぶのに必要なお金をもらうため

- ・遊ぶお金は、ちょっとでも遊べるから。・遊ぶのにお金を使ったら、暮らせない



から。

・遊ぶなら、生活に使えばいい。

② 偉くなるため

・偉くなくても働ける。・別に偉くなりたいとは思わない。

・偉くなると、仕事が増えるから。

③ お金持ちになるため

・お金持ちじゃなくても幸せならいいと思う。

・お金持ちじゃなくても、生活していけるお金があればいい。

・お金持ちになるために仕事をするんじゃないから。

## (2) 小集団(班)活動での集団での価値観の変化

班ごとの話し合いにより、職業価値として大切だと思うもの上位3項目、下位3項目を画用紙に記入させた。

上位として挙げた項目およびその代表的な理由は以下のものである。

① 暮らすのに必要なお金をもらうため

・暮らすにはお金がいるから。・お金がないと幸せな生活ができないから。

・お金がないと生きていけないから。

② 人の役にたつため

・人の役に立つことは、みんなが平和になれるから。・役に立つことは重要とおもうから。・人に笑顔や幸せになってもらえるから。

③ 自分の得意なことを生かすため

・得意なことを仕事にしたら、楽しくなると思ったから。・自分の得意なことを生かすことがいいと思う。・楽しくできた方がいいと思ったから。

上記の結果から、各班の上位3項目、下位3項目は、よく似ており、その理由もあまりかわらないものであった。このように、ほとんどの班での意見、理由が類似していた理由として、互いに話し合い活動によって、より一般性のある価値観に近づいていったのではないかと、記録、観察からうかがえた。ただし、個々の児童の意見がどこまで深く掘り下げて考えられているかについては、疑問が残った。すなわち、自分の意見は他児童に伝えることができているが、結滞にあたっては、班の多数の意見や、

リーダー的児童の意見が尊重されているように観察された。

また、集団決定した職業価値の中で上位3位以内にあがったものを集団活動前に個人の考えた価値観と比較すると、「世の中をよくするため」に代わって「自分の得意なことを生かすため」という項目が入っている。これは、職業観テストの結果と共通しており、個人の事後における価値観の変化と班活動による集団決定の結果が一致していることが明らかになった。また、「自分の得意なことを生かすため」の理由を見ると、仕事をするならば、自分の得意なことを生かして、楽しく仕事をしたいという思いが高まったことが認められる。

次に、下位として挙がった項目および理由は以下のものである。

① 遊ぶのに必要なお金をもらうため

・遊ぶお金は、ちょっとでも遊べるから。・遊ぶのにお金を使ったら、暮らせないから。・遊ぶなら、生活に使えばいい。

② 働くのは当たり前だから

・自分が働きたくなかったら、働かなくてもよい。・働いていない人もいるから。  
・親からお金がもらえるから。

③ お金持ちになるため

・お金持ちじゃなくても幸せならいいと思う。  
・お金持ちじゃなくても、生活していけるお金があればいい。  
・お金持ちになるために仕事をするんじゃないから。

集団決定により下位3項目に入っているものを事前の個人的な価値観と比較すると、「偉くなるため」に代わって、「働くのは当たり前だから」が入っている。これも、職業観テストの結果と共通している。ただし、「働くのは当たり前だから」が重要でないという理由を見ると、働かなくても生活していけるという、自己中心的な考えが出てきている。働くことに対する児童の考えに多様性が出てきたとも言えるが、職業観・勤労観のうえでは、必ずしも発達した状態とは言えないと思われる。

### (3) 小集団(班)活動後の個人の価値観

学級全体での話し合い活動後、児童個人の価値観について記述してもらった。結果は、(2)の小集団(班)活動での集団での内容と同じ結果となり、学級全体で9割近い児童が同じ項目、理由を記述していた。この理由は、話し合い活動によって、多様な価値観の理解、何のために働くのかという理由が明確になったのではないかと考える。

ここでの上位、下位項目、理由は(2)の小集団(班)活動での集団での変化とほぼ同様の記述なので省略する。

#### 4. プログラム終了後の振り返り

授業を終えて、振り返りカードに自由記述した、子どもたちの感想をまとめてみた。多かった感想は、次のものであった。

- ・人それぞれ、一番大事なことは違うと思った。(19/23人)
- ・みんなの意見を聞いて、働くことはどういうものかわかった。(14/23人)
- ・“役に立つため”、“世の中をよくするため”がとても大切だと思った。(10/23人)

このように、多様な価値に触れることで、子どもたちの価値観に授業プログラム実施の事前と事後の間に変化が起こったと考える。なぜならば、事前調査では経済的な側面を職業価値の上位としていた児童が多かったが、事後の授業プログラム終了後には、職業価値観の多様性に気づき、働くことはお金のため、生活のためだけではなく、社会的な意義もあることに気づいたことがうかがわれる。いろいろな意見を受け入れ、それを認め合うことができたことは、子どもたちにとって、とても有意義なことであつたであろうし、今後の中学校の職業体験や、高等学校への進路選択へつながる一石を投じたのではないかと考える。

## V 総合考察

本研究では、『職業あるいは仕事につくことによって何をしようとしているのか、何を最も重視して職業につこうとしているか』といった「職業目的意識」あるいは「職

業価値観」の変化を捉えようとし、児童の「職業観・勤労観」を育成するための授業プログラムを開発することについて検討してきた。本研究では、「職業観・勤労観」を主として、職業に関する知識に基づいた職業価値観と態度と定義している。具体的には「職業あるいは仕事につくことによって何を得ようとしているのか、何を最も重視して職業につこうとしているのか」ということに焦点を当てている。「職業観・勤労観」を能力的なものも含めたキャリア教育全体と重なるものと考えた先行研究は多いが、職業観・勤労観の中でも中核的な職業価値観を直接考えさせるような研究は少ない。本研究では、家族インタビューや職業調べ学習、小集団（班）での話し合い活動といった教育活動を行い、その効果を質問紙および、児童の感想から測定しようとした。それぞれの実践内容によって、児童がいかに関与の価値を形成するのかについて以下の2点の示唆を得た。

第1に、①家族インタビュー、②職業調べ学習から、世の中にはいろいろな職業があり、それらの職業の内容について理解を深めることが有効であること、また、職業に関する知識及び、職業価値観と態度を促進することができると考えられる。第2に、授業プログラムを通じて、小集団（班）の話し合い活動、職業価値の順位づけなどを行うことによって、人にはいろいろな価値観があることに気づくことができたのではないかと考える。

より具体的に言えば、この授業プログラムによって、①働く（職業）ことへの理解、②何のために働くのか（価値）という目的を理解する効果があることが確認できた。①家族インタビューや②職業調べ学習によって、児童たちの働くことへの知識や意味を把握し、話し合い活動によって、他児童の多様な価値観の違いを認め合うこと、また、現在の自己の価値観の確認を理解できる授業プログラムだと思う。いろいろなことを学び、単純な考えから、幅広い価値観を受容する姿勢を身につけられたと考える。しかし、②何のために働くのか（価値）についての理解の中で、個人の価値観は、将来、変化していく可能性があることに気づく。ということは、小学校段階では具体的に考えることが難しいように思えた。今後の課題としては、児童がまだ実際に働くことへの経験がないことや、物事を断片的に考える傾向があることなどから、単発的な活動では、断片的に終わってしまうことが懸念される。とはいえ、この授業プログラムを通して感じたことは、小学校段階でも実践的な職業価値観を考えていく教育活動

が積極的に行うことにより、職業・勤労に関する価値観の形成に影響を与えると考える。「多様な価値観の認識」、「職業観・勤労観の育成」に効果のある授業プログラム開発を今後ともさらに追及していきたい。

## 《引用文献》

中央教育審議会答申（2011）. 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について

国立教育政策研究所（2005）. 生涯にわたるキャリア発達の形成過程に関する総合的研究報告書（Ⅰ）－児童・生徒のキャリア発達に関する質問紙調査－  
[www.nier.go.jp/04\\_kenkyu\\_annai/div03-shogai.html](http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div03-shogai.html)（2014年1月最終アクセス）

国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）

『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』調査研究報告書  
[www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/sinro.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/sinro.htm)（2014年1月最終アクセス）

近藤 雄（2010）. 児童の勤労観や職業観をはぐくむプログラムの開発・実施を通して  
青森県総合教育センター 研究紀要

増井幸一・広井 甫（1965）. 職業観診断テスト 竹井機器工業株式会社

文部科学省（2004）. キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書

白木みどり（2010）. キャリア教育にかかわる価値観形成についての一考察  
上越教育大学研究紀要, 29, 75-86.

田原早苗（2007）. よりよい生き方を目指す子どもを育てるキャリア教育  
教育実践研究, 17, 169-174.

山田兼尚（2007）. 児童・生徒の職業観

国立教育政策研究所（編） キャリア教育への招待 東洋館出版社, pp.45-56.

## 《参考文献》

佐藤修一（2012）キャリア教育プログラム（総合的な学習の時間）

中央教育審議会答申（1999）初等中等教育と高等教育との接続について  
[www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chuuou/](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/)（2014年1月最終アクセス）

三村隆男（2004）学校教育への職業観・勤労観形成の導入過程における教科外活動の役割 日本特別活動学会紀要, 12, 23-32.

村上龍（2003）13歳のハローワーク 幻冬舎

文部科学省（2012）小学校 学習指導要領

文部科学省（2012）生徒指導提要

## Appendix 1

知っている職業を書いてみよう！

(名前 )

① あなたが知っている職業を書いてみましょう。

それは、どのようなことをする仕事ですか？知っていることを書いてください。

	職業	どんなことをする仕事か？
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

あなたにとって、「働く」とは、どのようなことだと思いますか？

## ＜働くことってどんなこと？＞No.2

月 日 (名前 )

あなたは、将来、何のために働きたいと思いますか。それぞれにあてはまる数字に○をつけてください。

この回答には、「正しい」とか「間違っている」ということは、まったくありません。

とても	まあ	あまりそう	まったくそう
そう思う	そう思う	思わない	思わない

- ① 偉くなるため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ② 人に認められるため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ③ お金持ちになるため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ④ 自分の得意なことを  
生かすため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑤ やりたいことを  
するため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑥ 遊ぶのに必要なお金  
をもらうため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑦ 暮らすのに必要な  
お金をもらうため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑧ 人と仲良くするため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑨ 人の役に立つため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑩ 世の中をよくするため・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑪ 働くのは当たり前  
だから・・・5・・・4・・・2・・・1
- ⑫ 貧乏にならないため・・・5・・・4・・・2・・・1

## ＜働くことってどんなこと？＞No.3

月 日 (名前 )

みなさんは、「働くこと」はどんなことだとおもいますか？

まずは、身近なお家の人にインタビューしてみましよう！！

学校の勉強では気づかないことも知ることができるかもしれませんね。

① 働いていて、楽しいことや、うれしいこと。

② 働いていて、幸せを感じる時は、いつですか？

③ 働くときに、しんどいことや、つらいこと。



## <働くことってどんなこと?>No.4

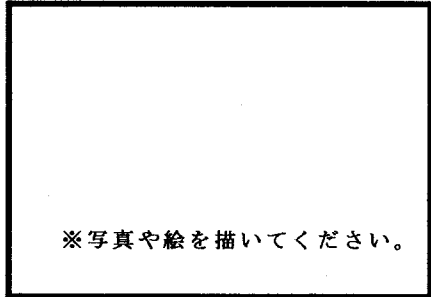
# 好きな職業を調べてみよう！！

あなたが、興味のある職業についてインターネットや本で調べてみましょう。意外に自分の知らないことを仕事にしているかも知れませんね！また、その仕事が社会にどのような意味を持つものかもしらべてみましょう。将来、この仕事で働けるといいですね☆

名前 ( )

職業名

( )



① どのようなことをしていますか？

---

---

---

---

② どうしたら、その職業に就けますか？

---

---

---

---

③ その職業は、まわりの人に、どんなことをしてくれますか？

---

---

---

---

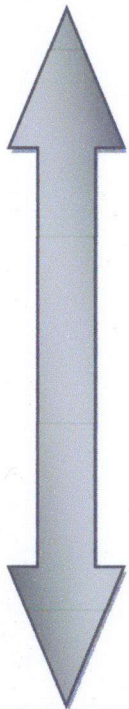
Appendix 5

働くことってどんなこと？

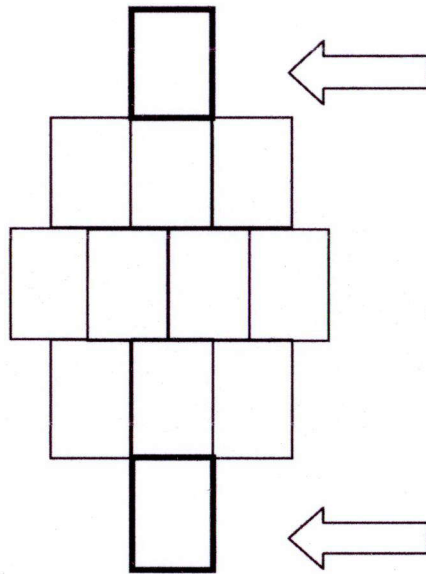
(名前 )

- ① あなたが将来の仕事を決めるとき、一番に考えることはどんなことですか？  
下の12個から考えて、ランキングしてみましょう。

重要



あまり重要でない



②これが一番重要だと思っ  
たわけは何ですか？

③これがあまり重要でない  
と思ったわけは何ですか？

- ① 偉くなるため
- ② 人に認められるため
- ③ お金持ちになるため
- ④ 自分の得意なことを生かすため
- ⑤ やりたいことをするため
- ⑥ 遊ぶのに必要なお金をもらうため
- ⑦ 暮らすのに必要なお金をもらうため
- ⑧ 人と仲良くするため
- ⑨ 人の役にたつため
- ⑩ 世の中をよくするため
- ⑪ 働くのは当たり前だから
- ⑫ 貧乏にならないため